

むかし、あるところに、母親と子ども三人の、四人暮らしの家がありました。母親は、毎日、町の米屋に働きに行きました。

ある日、母親は、出かけるときに、子どもたちにいいました。

「今夜は、夜なべ仕事で、帰りがおそくなるから、おまえたち、先に寝ていなさい。山姥が来たら、戸を開けてはいけないよ。山姥の手はがさがさしているから、さわってみればすぐに分かるよ」

母親は出かけて行きました。

夜になって、子どもたちが寝ていると、外から、

「今帰ったよ。戸を開けておくれ」と声がしました。上の子が、

「母さんかどうかみるから、手をさわらせておくれ」といいました。すると、戸のすきまから手が入って来ました。さわってみると、手は、がさがさしていました。

「これは、母さんの手じゃない。山姥だ」と、子どもがいうと、山姥は、

「ぬかをこねたから、がさがさしてるんだよ。それじゃあ、手をあらって来るから、待っておいで」といいました。

山姥は、粉屋に行つて、うどん粉を買つて来て、手にぬり付けました。そして、

「手をよくよくあらって来たから、さわってごらん」といつて、手をさし入れました。さわってみると、すべすべしていたので、子どもは、「母さんにちがいない」と思つて、戸を開けました。

母親に化けた山姥は、家の中に入つて来ると、末っ子を抱いてふとんに入りました。子どもたちが寝ていると、母親のふとんのほうから、がりがりと何かかむ音がしました。上の子が、

「かあさん、かあさん。何を食べているの」ときくと、母親は、

「米屋でつけ物をもらつて来たんだよ」といいました。

「おれも、ちよつとほしい」

「子どもは、夜に物を食べるもんじゃない」

「それでも、ちよつとでいいから、おくれ」

すると、かけらを投げてくれたので、見ると、それは末っ子の小指でした。上の子は、びつくりして、「こいつは、山姥だ」と思いました。そこで、しばらくしてから、

「かあさん、かあさん。小便がしたくなつた」といいました。すると、二番目の子も、

「小便がしたい、したい」といいました。山姥は、

「じゃあ、便所に行つておいで」といつて、ふたりの子どものおびに、ひもを結びつけて便所に行かせました。そして、自分はふとんの中でひものはしをにぎって待つていました。

子どもたちは、外に出ると、ひもをほどこいて、便所の柱にくくりつけました。それから、大急ぎで、家の裏に走つて行つて、井戸のそばの大きな木に登りました。

山姥は、いくら待っても、子どもがもどつて来ないので、ひもを引つ張りました。けれども、いくら引つ張つても、子どもはもどつて来ません。そこで、起きて行つてみると、便所にはだれもいませんでした。

山姥は、あつちこつち探しているうちに、家の裏の井戸まで来ました。のぞいて見ると、井戸の中に子どもたちが見えまして。

「こんちくしょう。こんなところにいたのか。つかまえて、ひとかみに食つてやる」

山姥は、大きなざるを持つて来て、井戸に入れて、水に映つた子どもたちをすくい上げようと思いました。けれども、すくえるはずがありません。

「あれ、もれてしまった。あれ、またもれてしまった」

何度も何度も、一生懸命すくいました。それがあんまりおかしいので、木の上の子どもたちは、思わずくすくす笑いました。

山姥は上を見上げて、子どもたちを見つけました。

「こんちくしょう。そこにいたのか。そんな木にどうやって登った」

上の子は、

「足の裏に油をぬつて登った」といいました。山姥は、家にもどつて油を取つて来て、足の裏にぬりました。そして、木に登ろうとしましたが、すべて登れません。山姥は、また、

「どうやって登ったんだ」とききました。すると、二番目の子が、

「なたで、木に傷を付けて登った」といいました。山姥は、なたを取つて来て、木に傷を付けながら、ずんずん登つて来ました。子どもたちは、こわくて、ちぢみ上がりました。

山姥が、もうちよつとでどきそうになったとき、上の子が、

「天道さま、天道さま。わたしがかわいかったら、金のくさを下ろしてください。にくかったら、くされなわを下ろしてください」といいました。すると、くされなわが、ボトボトと下りて来ました。山姥は、くされなわにつかまって上つて行きました。ちょうど真ん中まで来たとき、くされなわがブツンと切れました。山姥は、きび畑の中に落ちてしまいました。

それを見て、山姥は、

「天道さま、天道さま。おれがかわいかったら、金のくさを下ろしてください。にくかったら、くされなわを下ろしてください」といいました。すると、くされなわが、ボトボトと下りて来ました。山姥は、くされなわにつかまって上つて行きました。ちょうど真ん中まで来たとき、くされなわがブツンと切れました。山姥は、きび畑の中に落ちてしまいました。

それで、今でも、きびの根元には赤い血がついているのだそうです。

そりばつかし。